３級　【シーチング組み立て】傾向と対策

＜地直し・布目＞

・シーチングの地直しは、縦方向と横方向の 2 本の基準となる線がないと正確に行うことが難しいと思われる。地の目通りに線を入れ、縦横が直角になるようにアイロンをかける。シーチングの地直しが不完全なためにシルエットがうまく出ないこともあるので、試験以前の課題として適切なシーチングを正確に地直しし、しわの出ないように持参するよう心掛けていただきたい。

・試験前の準備がきちんとできていれば試験中の作業にも余裕が出来、より完成度の高い仕上がりが期待できるように思う。

＜身頃＞

・今回のデザインは、前身頃にスクエアヨークの切替えがあり、下身頃側にステッチが入っていた。原型操作を行い、残った胸ぐせダーツ分量をヨーク切替えで処理することになる。原型操作の段階でダーツ量の分散が正しく行われていないと、きれいにシルエットが表せない。

・シーチングのピン打ちは決められた方法があるわけではないが、不正確なピン打ちでシルエットを崩すことは避けたい。ピンを止めたことによってシーチングのシルエットを崩している場合は減点の対象になる。

・シーチングの縫い代を片倒しの状態にピン打ちする場合、どちら側を上に乗せるかについても正解があるわけではなく、結果としてシーチングが美しく表現されていればよい。一般的には片返し処理をして縫製するときと同じ方向に倒すことが多い。よって今回のヨーク切替えの組み立ては、下身頃にステッチが入っていたので、下身頃の縫い代を折り、ヨークの出来上がり線にのせてピン打ちをする。

・ダーツなどのピンの間隔やピン打ちの位置によってシルエットを崩す原因となるので、普段から意識して練習していただきたい。

・シャツブラウスに限らず前端や裾、袖口は出来上がりに折り、縫い代が出てこないようにある程度ピンで止める。折られていなければ未完成として不合格になるので注意する。

・組み立てたシャツブラウスをボディに着せ付けする場合、前中心・後ろ中心を合わせシーチングが着崩れないように、必要な箇所にピン打ちをする。ボディの肩にかけているだけのシーチングは完成していないと見なされるので注意する。

＜ボタン（身頃）＞

・ボタン位置とバランスはよくできていたと思われるが、まれにボタンの数の間違いや大きすぎるもの、小さすぎるものもあった。

・今回はヨーク切替えに４つ、下身頃に３つのボタンが付き、間隔が違っていた。間隔も位置もデザイン画を見て適切な位置につけていただきたい。

・配点の対象ではないが、ボタンホールも記入し実物縫製した時の雰囲気が表現できるようにしていただきたい。模範解答のようにボタンを上から付けると付け位置が隠れてしまうので、ボタンにも十字の印を入れるか、ボタンホールを身頃に記入し付け位置も明確に表現していただきたい。

＜衿・衿付け＞

・今回の衿はシャツカラーであった。デザインと違った雰囲気の衿が多々あり、デザイン画通りの形状なるよう事前練習を十分行う必要があったと思う。

・地の目の取り方も、本来のシーチング組み立ての目的であるパターン修正に適した方が望ましい。衿の地の目はたて地、よこ地どちらでもよいとされているが、シャツブラウスの場合、後ろ中心をたて地にしたほうが適切と思われる。

・衿の外回りの縫い代は裁ち切りでもよいとされているが、特別な場合（微妙なカーブ線や形状の場合）以外は裁ち切りにしないで、縫い代が浮き上がらないようにアイロンでしっかり折り込んで、ピン打ちはしない方が望ましい。衿付け線のピン打ちは、縫い代を折り、縫い目線の際を衿付け線に沿って平行に止めるとよい。その際に、身頃の衿ぐりの縫い代が首につかえている場合は、切り込みをいれなじませてから衿付けをする。

＜袖・袖付け＞

・袖山が身頃アームホール寸法より極端に大きいためにいせ込めていない袖や、逆にアームホール寸法より小さいために身頃がいせ込まれてしまい身頃にしわが出ている物もあった。シャツブラウスとして適切ないせ分量になるよう作図の段階で確認すべきである。

・袖付けのピン打ちは、縫い目線の際を袖付け線に沿って平行に止めるが、ピン打ちの不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。

・きれいに袖付けするためにも合い印を忘れずに入れ、きれいな袖付けがスムーズにできるよう心掛けたい。

・今回の絵型は身頃の袖ぐりにステッチがないのでイセの少ない袖高のセットイン袖として読み解けるが、身頃高になっている物もあった。許容の範囲ではあるが、身頃に無理がかかりしわの原因なっている。

＜ステッチ＞

・パターン上のステッチはパターンの端と端に記入されていればよいが、シーチング組み立てにおいてはすべて記入されていなければならない。

・ステッチ幅違い、ステッチが途中までのものは不備なため、減点される。

・最後に、シーチングの組み立ては、ただパーツが組み合わさっていればいいわけではない。業務として考えると、他の人が見て実物の商品が想像できるものでなくてはならない。デザイン画にあるパーツ全てそろえるとともに、実物の形状と同じ形に組むことが最も大切なことである。普段から手を抜くことなく、繰り返し練習を積んでいただきたい。